

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393600063		
法人名	有限会社フロンティア		
事業所名	グループホームたいら金時		
所在地	〒709-4334 岡山県勝田郡勝央町平1119		
自己評価作成日	平成29年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JivgvoCd=3393600063-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山本校		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成29年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“笑顔には笑顔”“笑顔に勝る物は無し”をモットーに、職員は笑顔でご利用様を自分の両親と深い愛情を持ち、優しい声掛け・対応をさせて頂いています。
 今では、ここが自分の家だと言って下さる方も多くなりました。
 今後も第2の我が家から第2が取れ我が家・・・家族として、安心して穏やかな生活が出来る様に支援させて頂きます。又生きがいを持って生活が出来る様に皆様がしたい事、出来る事を増やして、生活の活性化を図ってまいります。
 元気で明るい我が家をご利用様と職員と一緒に築いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所二年目を向かえ、二度目の外部評価だった。去年不穏状態で、職員に対し拒否を露骨に表していた利用者は、職員に多大なる信頼を置き、穏かな表情をしていた。家族も安心し、面会の回数も増えている。しかも、他の利用者が帰宅しそうな素振りをした時は「ここが我が家だよ」となだめてくれている。地域に支えられながら利用者が暮らしていける様、開所当初から大家を通じて区長や民生委員を紹介してもらい、運営推進会議のメンバーにもなってもらっている。区長は、地域の行事がある際は知らせてくれ、事業所が「芋煮会」をする際は、町内会ではチラシを配付してくれた。互いに行き来し、交流を深めている。今回の夜間想定避難訓練にも地域の方が参加してくれた。今後も地域と交流を図る為、「芋煮会」を継続し、参加者が増えていくことを楽しみにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念 “第2の我が家” として自分らしい生活を送る事が出来る様に支援します。を玄関に掲げると共に、職員会議・普段の業務の中で職員に周知・共有し実践しています。	入居当初、帰宅願望があった利用者が、現在は「ここは楽しいからここが良いわ」と言ってくれている。他の利用者が帰ろうとする素振りを見かけたら、「ここが我が家だよ」と声掛けをしてくれる利用者もいる。理念の実践が見て取れた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開かれた施設として地域の人との交流は大事にしています。地域の方のボランティア・愛育委員の受け入れ・芋煮会幼稚園児の来訪訪問、又は文化祭へ作品出品等々、今度も関わりを持ち地域のグループホームを目指します。	今年度、地域と家族を招待し「芋煮会」を行った。事前に案内をした処、当日は地域の方が率先して調理を手伝ってくれた。区長に町内会でチラシを配ってもらい、地域の方が昼休憩の合間に参加し、事業所の理解へと繋がった。	開所当初から、地域交流の機会となる「芋煮会」の実施を希望し、今年度実現した。「芋煮会」が地域に浸透し、参加者が年々増えることを楽しみにしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	愛育委員の視察・中学生のボランティアを受け入れ利用者様の日中の様子を見て頂き、グループホームの役割について質問を受け認知症の理解をして頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、家族様(5~6名)・区長・民生委員・市町村に召集をさせて頂き、利用者様の様子や行事報告、予定を報告し、意見、要望を聞かせて頂き、サービス向上に反映しています。	毎回、事業所の様子を報告しているが、家族等が知りたいことを議題に挙げたいと考え、職員紹介を実施した。職員の事業所に対する思いや性格を管理者から伝え、参加者からも良かったと評価する意見が出た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村主催で、半年に1回程度地域密着型生活介護管理者会議があり、情報交換をしています。 グループホーム主催の運営推進会議に参加を要請し、情報交換・交流をしています。	行政とはこまめに連絡を行ったり、直接出向いたり等、協力関係を築いている。行政も大変協力的で、事業所が必要とする情報の提供をしている。新たな申込者が出た時は、必ず市に報告し助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修参加、職員会議で研修報告、身体拘束防止について周知し、マニュアルを事務所に設置し、職員がいつでも閲覧できる様にしています。	身体拘束をしないケアを実施している。利用者が点滴をする際は、注射針を抜かないよう職員が寄り添い見守りをしている。外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけ一緒について行く等、自由に暮らしてもらっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で虐待防止について周知し虐待防止マニュアルを事務所に設置しています。 岡山県主催の虐待防止研修会への参加。 日頃から事業所内で虐待が起こらないよう細心の注意を払い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度・日常自立支援事業や成年後見制度について、現在は該当者はいませんが、今後どのような対応も出来る様に研修対応していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改定時には利用者様、家族様に十分な説明をさせて頂き理解、了解はして頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、面会時に家族様より意見・要望を聞かせて頂ける雰囲気作り、信頼関係の構築で、多くの事を聞かせて頂き、日常の業務に生かしています。	面会に来る頻度が多い為、家族と話をする回数も増え、何でも言ってもらえる関係が出来ている。家族は在宅時に悩んでいた事も話してくれようになり、意向の把握に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要時、職員会議時、意見交換、提案を聞き業務に生かし、より良い住まいを作っていきます。	職員会議や業務中に意見や要望を聞くようにしている。ノロウィルスの感染対策勉強会をしている時に、「いざという時動揺して処理方法が解らなくなる不安がある」との意見が出て、一目で順番が解る様、道具の置き方を工夫した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の勤務状態を把握し、必要時に意見、話し合いの機会を持ち、各自が向上心を持ち働ける環境・職場作りをしています。意見を言い合える雰囲気・環境を作ります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験や性格により個人差があり、施設職員全体のレベル向上を目指し、日頃の業務の中、研修・指導・勉強会をしていきます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2カ月に1回多職種連携研修会があり、同業者・医療・ケアマネ・薬剤師それぞれの専門的立場で、困難事例について勉強、意見交換、交流を図り、持ち帰り、施設内に周知しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面接時には良い印象を持って頂けるよう真剣に傾聴させていただきます。業務より利用者様優先で個別ケアで環境を変え、散歩・ドライブで話やすい環境を作っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面会時、介護計画作成時には笑顔で控えめに、言葉の奥に隠された思いに気づき、真摯な気持ちで接し、困っている事、不安・要望を聞かせて頂いています。家族様への支援も必要だと思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様と利用者様の要望が違う事が多いです。今必要な優先順位を考え、家族様・利用者様と話し合いを大事にして対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様と共に過ごし支えあう関係は施設として目指す所で、利用者様は人生の先輩であり教えて頂く所は多くあります。共に生活をさせて頂ける関係を築きたいと思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員が出来る事、医療が出来る事、家族様しか出来ない事がありますが、普段から3者の信頼関係を保ち連携して利用者様・家族様を支えていきたいと常に考えています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のボランティアの訪問、幼稚園児の訪問等があり、施設主催の芋煮会で地域の人との交流を図っています今年も沢山の参加がありました。面会の少ない家族様には面会の依頼をしていますが、ほぼ面会は多い方だと思います	業務日誌で確認したが、ほぼ毎日誰かが面会に来ている。面会の頻度が少なかった家族も、両親の穏かな様子に安心し、仕事の合間に訪れてくれるようになった。利用者の好物の手作りゆず茶を持って来てくれる身内もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家族のように暮らしていますが、その中で孤立する人がないように配慮し、声掛けをさせて頂く中、お互い出来る人が出来ない人の世話をしたりと、皆様の雰囲気は大変良いと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族様方から葉書が届き、ご利用者様の様子を聞かせて下さり、こちらからも交流を図らせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや希望を聴き思いに気付き、その人らしい生活が出来る様に努めています。特にその人の生活リズムは大切にしています。	理念である「第2の我が家」を目指し、暮らしの継続支援に努めている。朝食も無理に起こす事無く、好きな時に食べてもらっている。利用者から呼ばれた時は作業を中断し、寄り添い思いを受け止めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、家族様関係、病歴等をフェースシートに残し、サービス経過も個人様ファイルに閉じ職員への周知をしているので把握は出来ていると思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々、出来る事はして頂きながら、現状の把握、異常時の早期発見対応は、毎日心掛けて対応させて頂いています。毎日笑顔で穏やかな生活が出来る事を基本としています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設内担当者会議で意見を出し合い、今必要な方針を決め、介護計画書に繋げたいと思っています。出来る事が段々と減っていく為、少し頑張るような事を盛り込んでいきたいと思っています。	職員会議で意見を聞き、半年毎に計画の見直しをしている。要望に対して目標を立て、提供するケアについて、職員会議で伝えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録は個別記録に残し、職員間で共有は出来ており、日々の実践に生かしていると思いますが、ケアの実践・結果・気づきを個別記録に記入が出来ていない時がある為、今後統一した記録を目指し指導します。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対し、今その人に何が必要か、何を求めているのか考えながら柔軟な支援を今以上に努力していきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアに要請、来訪して頂き交流している。地域で取れた食材を使い芋煮会を開催し、沢山の地域の方・家族様との時間を楽しんで頂きました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、家族様の要望で在宅からの主治医を継続されている人、又施設の連携医に変更された人さまざまです。受診、往診あり。受診は緊急時以外は家族様対応です。	入居時に、家族の要望を確認している。在宅時からかかっている医師は、利用者をよく把握しているし、家族も安心するとの考えから、継続支援をしている。定期受診は家族が付き添っているが、車椅子利用者の場合は、同伴することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1/W訪問看護あり、ご利用者様の様子・交流等あり、24時間対応可能で、安心して生活を支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、医療機関と連携し、必要な添付書類・情報交換や相談援助には努めています。今後も病院関係者との良好な関係作りを心掛けます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の人の入所も多く、本人様・家族様と話し合いながら、医療と連携しチームで支えています。施設で出来る事の説明を家族様にはさせて頂き、今後、職員にはターミナルケアの研修もしていきたいと考えています。	管理者は、「第2の我が家」である事業所にて、最期まで世話をしたいと考えている。本人や家族の意向を踏まえ、医師と連携を取りながら、安心して納得した最期を迎えられるように、随時意思を確認している。	看取りに向け、研修会の実施を検討している。終末期に向けた方針の共有と支援の実現に期待を寄せる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルがあり、その都度の対応が出来る様に、定期的に研修・演習をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害はいつ発生するかわからない為、今後ご利用者様の安全な生活確保の為、災害時の対応研修に参加、全員が対応出来るよう又地域との協力体制も強化していきます。	運営推進会議の時に、「夜間は地域の協力がが必要です」と夜間想定避難訓練の参加を依頼した。区長が段取りしてくれ、地域の方が参加し、利用者の誘導を手伝ってくれた。今後も地域交流を深め、災害時の協力強化に努めていく考えである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の立場に立ち、優しい介護を基本として、周知していますので、出来ていると思います。今後も尊厳を守り自尊心を傷つけないようにして、精神的に安心・安定した生活の支援をします。	管理者は、人生の先輩である利用者に対し、尊敬の気持ちを持って接して欲しいと指導している。自立している利用者には、安全面に配慮しながら、入浴時等さりげない見守りに徹している。一人の時間を大切にする利用者には、その思いを尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中、入浴時に衣類選び、他の事にも自己決定が出来るような言葉の工夫をしています。自分の家で生活をしているように、自由に時間を使って頂いています。強制はしていません。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念第2の我が家として自分らしい生活が送れるよう利用者様の生活歴から昔得意だった事が自信を持って出来るように支援しています。(料理・野菜作り・塗り絵・歌等)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お誕生日・外出時には一緒に衣類選びをさせて頂き「綺麗ですね」「素敵ですね」等ささいな事にも気づき、おしゃれをする気持ちを忘れないように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は一番の楽しみである為、普段から食べたい物の把握をし提供しています。又季節の物を提供しよう心掛けています。職員と一緒に準備し、食事を楽しく和気あいあいと楽しめるようにしています。	食事は視覚からも食欲が増すよう、盛り付けから色使いまで工夫を凝らしている。おはぎが好物という利用者が多いので、おはぎの形に似た「0」(ゼロ)の付く日を「おはぎの日」としようと提案し、楽しみに繋げてくれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量摂取表に記録し、職員全員が一日の水分量を把握し、水分摂取量の少ない利用者には何回かに分け、色々な飲み物を用意しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じた口腔ケアは確実にこなしています。自立支援継続の為、口腔ケアがしやすいように工夫・準備をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入して、個人の排泄パターンは職員が共有出来るようにしています。オシメで入所された利用者様もトイレでの排泄に変更出来た人もいます。	尿意、便意を感じる利用者には、安易におしめに頼らずトイレ誘導をしている。それは、トイレで排泄する爽快感を大切にしたいと考えているからである。利用者が重度化した際も、本人の希望で夜間もトイレ誘導を継続していたこともある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、レクリエーションでリズム体操を取り、又十分に水分・食事が摂れるように予防に取り組んでいます。(牛乳・ヨーグルト等) (便秘予防には、運動・水分・食事が重要)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	今は週間予定表で入浴を提供しています。入浴回数は利用者様により違いますが、お風呂の好きな人には多く提供しています。	本人の意向に沿った入浴支援をしている。入所当初、自尊心から手伝われる事を拒み入浴拒否をしていた利用者も、今では職員の支援を喜んでいて。重度化し、浴槽に浸かる事が出来なくなった利用者には、絶えず声掛けをしながら掛け湯し、体が温まったかどうかを確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活習慣を尊重しています。起床時間・朝食時間はさまざまですが、昼食・夕食は全員で食べられます。入眠も個々の時間に沿って対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳、処方箋は職員がいつでも確認出来る事務所へ保管しています。又個人の薬を写真で掲載し、簡易薬表を作成し、薬箱の横へ置き確認出来るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や得意な事は個人ファイルに記載し職員が共有し生きがいのある生活支援に努めています。(花・野菜作り、収穫、料理・洗濯物たたみ) 役割として個人的にテーブル拭き消毒・配膳		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	暖かい時期には近くを散歩し、近所の人との交流があります。家族様との外出有り。季節行事(お花見・紅葉狩り・ドライブ・初詣の支援)をしています。	気候が良い日は近くを散歩したり、ベランダでお茶をしたり歌を楽しんだりする。四月は滝川の沿道に植えられた桜並木を眺め、川のせせらぎを聞きながら、のんびり歩く。家族と馴染みの美容室に出かけたり、誕生日の祝いに外食したりする利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の個人持ちは、希望なく、家族様が必要な物を購入して持って来られます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある時は支援します。 家族様の面会が多い。 手紙のやり取りが出来る利用者は支援します。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかな生活が出来るように天気の良い日は、ベランダや庭に自由に出られ、野菜や花作りやお茶をしたりします。ホール内は季節を感じられる展示物をしています。ホールは南向きで、明るく開放感があり憩いの場になっています	区長が今年は何年だからと、うぐいすやめじろの写真をプレゼントしてくれ、各所に展示している。花好きの利用者や職員が多いので、玄関や居間にはいつも季節の花が飾られ、家族からも好評である。トイレの窓から、利用者と一緒に外の景色を楽しむ事もある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごす事が好きな人、一人は寂しい人、話好きな人、聞き役の人と個々の思い思いに、居心地よく暮らして頂ける様に支援させて頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた、お茶碗・マグカップ又家具等をご家族様が入所時に持ち込まれ、利用者様と配置されます。ぬいぐるみ・ご主人様の仏壇を持って来られている利用者様もおられます。	夫婦仲が良かった利用者は、夫が使用していた居室を継続して利用し、ふとんやタオルもそのまま使っている。写真もたくさん飾り、思い出と一緒に過ごしている。退所した家族の好意で購入された加湿器は、乾燥対策に一役買っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活の中で、動線に物を置かない、歩行器、車椅子の置き場所等危機感を持ち対応し、安心、安全で出来るだけ、自立した生活が出来るように努めています。		